

伐木技術普及研修の実施について ～ 安全な伐木技術に全集中 ～

1 はじめに

令和2年の岩手県内における林業死亡労働災害は3名(10月末時点)となっており、9月23日から12月末まで「林業死亡労働災害多発警報」が発令されているところです。

このことを受け、釜石地域の林業事業体を対象に、改めて、チェーンソー作業にかかる安全管理を意識していただくとともに、技術向上による労働災害の未然防止を目的に、12月4日(金)、大槌町赤浜地内において伐木技術普及研修を開催しました。

当日は、管内の4事業者から8名が参加し、岩手県伐木技術指導員の武田智之氏(公益財団法人岩手県林業労働対策基金)を講師に、実技を踏まえた研修を行いました。

2 研修内容

(1) 労働安全

実際の林業の事故事例について説明があり、林業作業は事故が多いことを認識して作業に当たるように説明がありました。

(2) チェーンソー及び安全装備のメンテナンス

講師が、参加者のチェーンソーの整備状況を1台ずつ確認し、メンテナンスについてのアドバイスが行われました。

また、ヘルメットや防護ズボンなどの安全装備について、耐用年数やメンテナンス方法についても説明がありました。

(3) 間伐木の伐採、かかり木処理(実習)

林内に移動し、参加者一人ずつの伐倒作業を確認し、細やかに指導が行われました。

特に、受口の作り方に対して、水平切りと斜め切りをぴったりと合わせて会合線

を一本出すことの指導が行われました。こうすることによって、ツルが正確に働き、正しい方向に伐倒できること、ひいては安全な伐倒作業につながることを指導していただきました。

また、実際にかかり木を発生させ、安全な処理方法についても実習が行われました。



(4) チェーンソーの目立て(実習)

伐倒実習後には、実際に作業に使用したチェーンソーの目立てを行い、丸やすりの正しい使い方など、刃の作り方について学びました。

3 終わりに

参加者から、伐倒技術の緻密な理論に驚きの声が上がったほか、チェーンソーの目立てのコツを教わるなど、これまで自己流で行ってきた作業を見直す良いきっかけとなりました。

この研修で身に付けた技術を現場で実践していただき、これからも事故のない安全な伐倒作業が行われることを願います。